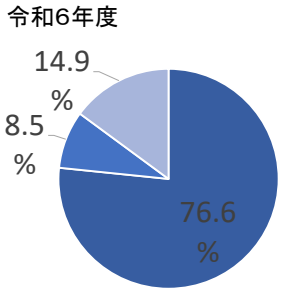
板橋区コミュニティ・スクールに係るアンケート調査《地域コーディネーター回答用》まとめ

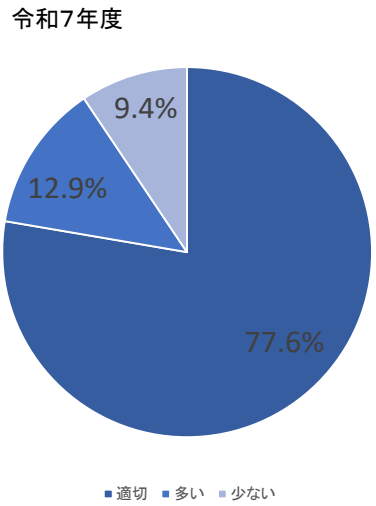
令和７年度

1

1

Ｑ１　地域コーディネーターとしての活動の時間数は、総合的に見て適切だと思いますか。





活動時間数が「適切である」とする地域コーディネーターは約７７．６％であった。

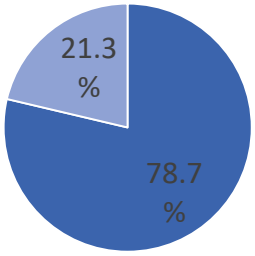
地域コーディネーターの活動時間は毎年増加傾向にある。

2

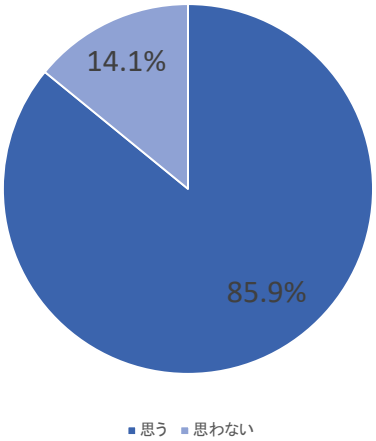
2

Ｑ２　支援活動実施前に学校との打合せは十分に行えていると思いますか。

令和6年度



令和7年度



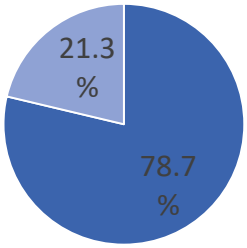
　学校との打合せが十分であると思うと答えた地域コーディネーターは、
約８５．９％と昨年度より約７％増加した。
　年度初めや夏休みに学校とコーディネーターとで支援活動について打合せをしている学校が多い。

3

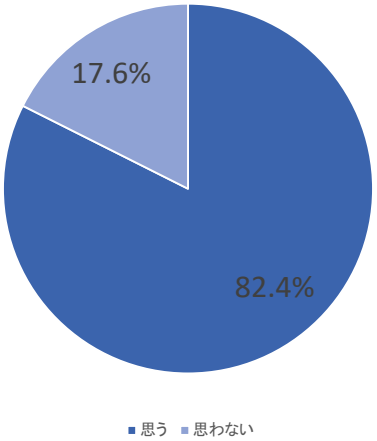
3

Ｑ３　支援活動実施前にボランティアとの打合せは十分に行えていると思いますか。

令和6年度



令和7年度



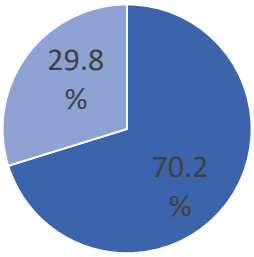
　ボランティアとの打合せが十分であるとする地域コーディネーターは、
約８２．４％と昨年度より約４％増加した。
　ボランティアの募集、連携について各校工夫をしながら活動している。

4

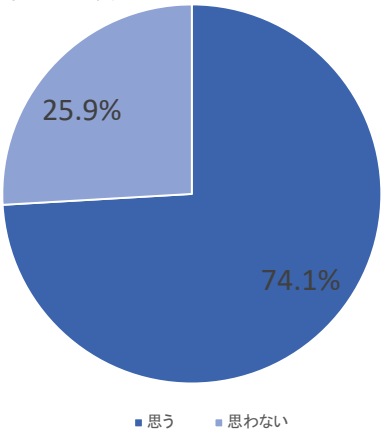
4

Ｑ４　他の団体（おやじの会、ＰＴＡ、寺子屋、町会、企業等）と連携ができていると思いますか。

令和6年度



令和7年度



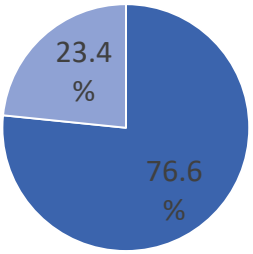
　他の団体と連携ができているとする地域コーディネーターは約７４．１%であった。ＣＳ委員会にて、様々な属性の委員と情報交換することができるという回答があった。コーディネーター自身がＰＴＡやおやじの会と兼任しているケースもある。

5

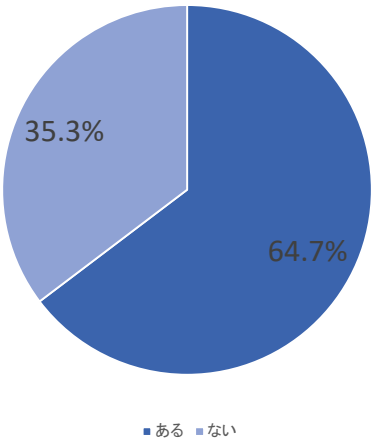
5

Ｑ５　活動をするにあたって、課題と感じていることはありますか。

令和6年度



令和7年度



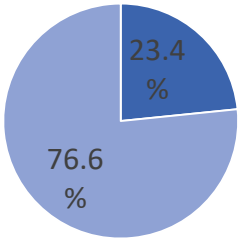
　約６４．７%の地域コーディネーターが課題を感じていると回答し、昨年度から約１２%減少している。
　後継者の育成、学校とのコミュニケーションについて課題を抱えている地域コーディネーターが多くみられた。

6

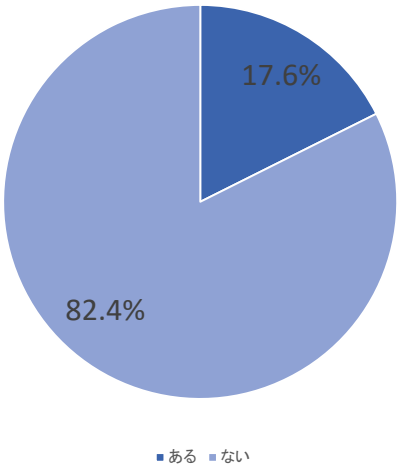
6

Ｑ６　統括コーディネーターに個別に相談したいことはありますか。

令和6年度



令和7年度



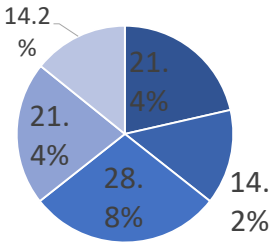
統括コーディネーターに相談したい地域コーディネーターは、約１７．６％であった。ボランティアの募集方法やビオトープについてなどの相談がある。

7

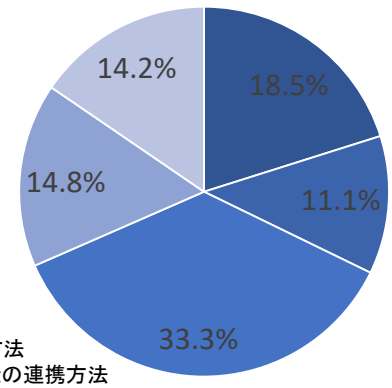
7

Ｑ６－２　統括コーディネーターにどのような内容を相談したいですか。

令和6年度



令和7年度



①新たな学校支援活動の開始方法
②他校の地域コーディネーターとの連携方法
③学校との連携方法
④次世代のコーディネーター育成方法
⑤その他

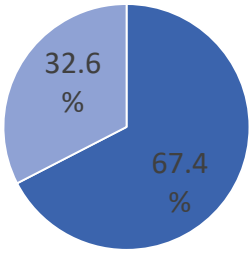
①「新たな学校支援活動の開始方法」③「学校との連携方法」について相談したいとする回答が多くみられた。研修後やＣＳ委員会の視察後などに直接統括コーディネーターに相談することもできる。

8

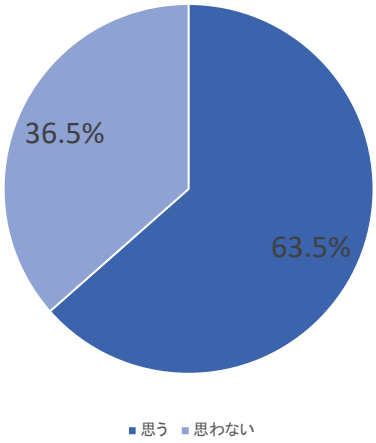
8

Ｑ７　ＣＳ委員会は学校支援地域本部の活動に効果的な影響を与えていると思いますか。

令和6年度



令和7年度



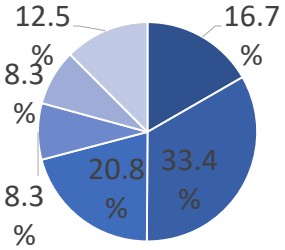
約６３．５%の地域コーディネーターが、ＣＳ委員会が学校支援地域本部の活動に効果的な影響を与えていると回答した。「ＣＳ委員会に教員が参加しているため、コーディネーターへの求めが伝わりやすい」という意見があった。

9

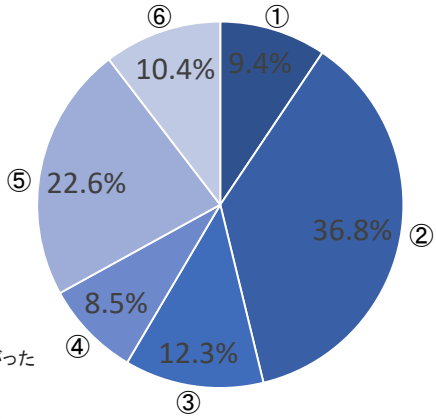
9

Ｑ７-２　ＣＳ委員会は学校支援地域本部の活動に効果的な影響を与えていると思いますか。上記の回答理由を選択してください。（複数回答可）

令和6年度



令和7年度



①学校支援地域本部の知名度が上がった
②学校のニーズがわかりやすくなった
③ボランティアが集めやすくなった
④CS委員会との連携方法がわからない
⑤今までとの違いがわからない
⑥その他

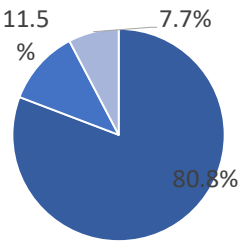
「学校のニーズがわかりやすくなった」とする回答が多く見られた。その他の意見の中には、「地域人材とのつながりにおいて視野が広がった」「ＣＳ委員会で、学校支援地域本部の活動についての問題定義をしている」などの意見があった。

10

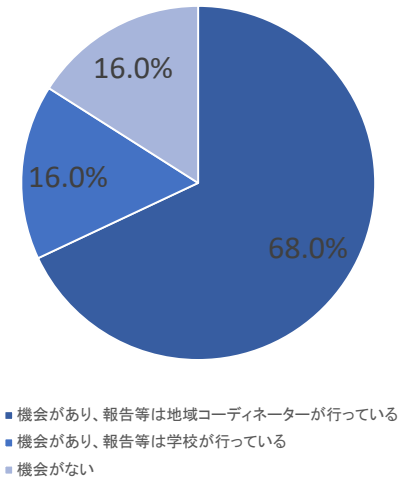
10

Ｑ８　ＣＳ委員会で学校支援地域本部の活動について報告や相談をする機会がありますか。（ＣＳ委員に委嘱されている方のみ回答）

令和6年度



令和7年度



ＣＳ委員会において、学校支援地域本部の活動を報告している委員会は、約８４％であった。

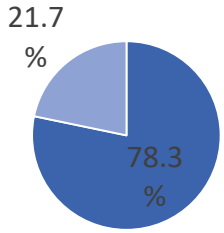
ＣＳ委員会と学校支援活動が両輪・協働の関係で機能していくために、活動報告を行うことは重要である。

11

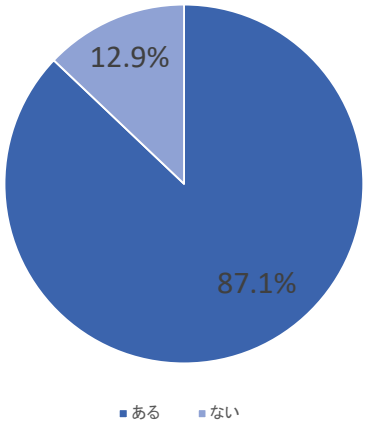
11

Ｑ９　ｉＣＳに関する情報発信のため、「ｉＣＳレター」を年数回発行していますが、読んだことはありますか。

令和6年度



令和7年度



約８７％のコーディネーターが、読んだことがあると回答した。すぐーるでの配信で読んでいる委員が多数だった。

内容については、ｉＣＳの仕組み・取組について、各ＣＳ委員会の好事例について参考になったという意見が多く寄せられた。

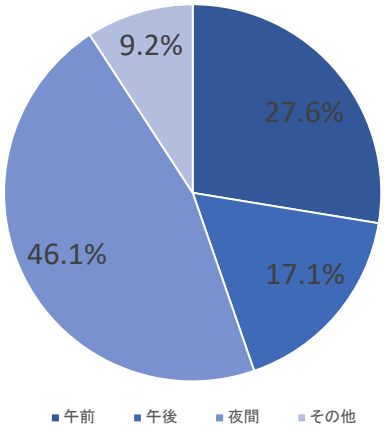
12

12

Ｑ１０　教育委員会が主催する研修等について、参加しやすい時間帯はいつですか。

令和6年度
　設問なし

令和7年度



　夜間の時間帯が参加しやすいという回答が約４６％と最も多かった。
　「仕事をしている地域コーディネーターも多いため、日中の参加が難しい」とする意見が多かった。

13

13

Ｑ１１　ＣＳ委員会や学校支援地域本部に関して、学校や教育委員会に対する要望・意見等がある場合はご記入ください。

主な意見の内容とそれに対する回答

意　見	回　答
校外学習の引率ボランティアに交通費を出してほしい。	令和８年度から、校外学習引率ボランティアの交通費と入園料を支給対象としている。
学校支援地域本部の活動について知らない、良く分かっていない保護者が多い。	ＳＮＳ等の活用により、保護者への活動の周知に努める。
学校からの依頼が急なことがあり、準備をする時間が足りず、サポートが中途半端になってしまうことがある。	見通しを持った活動計画ができるように、学校と地域コーディネーターの打合せの機会を多く作っていただきたい。

14

14